

## 「夢に向かってファイト」

東海・北陸地区 静岡県 JA大井川女性部

園田 さなゑ

私達女性部では、毎年地場産品を使った、料理の試食会「家の光クッキングフェスタ」を地域の代表者や学校関係者、JA 役職員等をご招待して開催しております。

平成 15 年に学校給食の栄養士さんをお招きした際に「地元で採れた農産物を是非、学校給食で子供達に食べさせたい。」というお話がありました。島田市では近年あちらこちらで荒れ果てた農地を見かけるようになり、寂しく思っていた矢先のことで、「遊休農地を活用して学校給食用の農産物を作らない？」と部員に呼びかけたところ、18 人の部員が手を挙げてくれました。

農産物が沢山実りをもたらし、仲間同士の心が潤い、何よりも子供達が実りある人生を送って欲しい、と願いを込めて、平成 16 年 6 月「実のりの会」が発足しました。

ゼロからの出発のため出資金は 1 人・10,000 円ずつ集めました。

女性部の目的別グループと位置付け、会の規約も作りました。

この活動に賛同してくださる方から、遊休田 15 アールを借りる事も出来ました。

栄養士さんから「学校給食で玉葱・ジャガ芋・人参は毎日使います。」とお聞きしていたので、JA 営農経済センター指導員に相談し、共販品で取り扱われていない玉葱・ジャガ芋そして大豆を栽培することに決めました。

背丈ほどに伸びた、茅やススキを刈り取ることからの始まりです。

8 月のうだるような暑さの中、4 t 車 5 台分の堆肥を広げ、仲間のご主人がトラクターで何度も耕して素晴らしい圃場に仕上げてくださいました。

11 月の終わり JA の指導を受けて、肥料をふり、マルチを張り、育苗センターより玉葱の苗 30,000 本を購入し植え付けました。

2 月に季節はずれの大雨が降り、玉葱が心配で見に行くと、畑一面湖。

「どうして？」この畑、排水路がない。誰ひとり確認しなかったことでした。

あわててあぜを切り、下の田んぼに水を流したら、田んぼの持ち主に怒られ、困り果てていると、仲間が心配して集まり、3 台の水中ポンプで水を出し、やっと玉葱の姿が見え、ほっとしました。

しかし、このままでは雨が降るたび困るので、市役所に相談に行き「すぐやる課」が確認に来て、排水路を作ってくださいました。

その後、草取り・追肥と管理を重ね丹精込めた玉葱は、収穫を迎え、初めての出荷の日、ドキドキしながら給食センターに搬入しました。

「待っていましたよ、いい玉葱が取れましたね。」と喜んで頂き、みんな一安心。出荷に行くたびに、一言、二言、話をしていく中で、栄養士さんから、「農家の皆さんの苦労話や、現状を聞いて良かった。『実のりの会の人達の玉葱です』と、給食便りに載せましたよ。」と言って頂きました。

次の作物は、大豆です。7月の終わり、地元の小学生も手伝いに来て、溝をきる子、種を蒔く子と分業です。

1人の子供が、「おばさん大豆を蒔くのって、疲れるし、暑いし大変だね。給食に大豆が出たら、皆に、残さないで食べるように話をするね。」と言ってくれたので、仕事の疲れも消えていきました。

除草、土寄せ、消毒等多くの作業を行い、大豆 250 キロを収穫。給食センターに納品しました。

ここで初めて一年働いた賃金を頂きました。

時給 50 円もったいなくて使えません。今でも大切にタンスにしまってあります。

2年目に入り玉葱の植え付けは、昨年より多い 35,000 本を、水がつかないように、高畝に定植しました。

皮肉な事にその年は雨が少なく乾燥続き。今度は水掛けの毎日に追われていた時、学校の給食週間に、「実のりの会」のメンバーが招待されました。子供達と一緒に給食を食べていると、「島田の食材が何品入っていますか？」と言う校内放送がありました。

子供達は「これだ。これも。…」とさがし、地場産品の多さにびっくりしていました。

校長先生から「島田市学校給食の献立には、40 品目の地場産品が使われていて、社会科の勉強にもなります。」とあって頂き、給食の食材を届ける私達も教育の一環を担っているんだと自負しました。

5年生の先生から「子供達に農業体験をさせたい」と依頼があり、80人がジャガイモの植え付けの手伝いに来てくれました。

当日は JA 営農指導員の指導を受け、切り口を下にし、種芋にかからないように肥料をする子・土をかぶせる子、皆一生懸命に仕事をしてくれました。

玉葱とジャガイモの収穫も子供たちが手伝いに来てくれました。ジャガイモは田植えの時期と重なり冠水し、たくさん収穫出来なかったので少しずつ子供達のお土産にしました。

実のりの会 2年目の玉葱出荷開始です。

十分に注意して出荷したにもかかわらず、「割れたのや、小さい玉が入っていた。腐りもありました。」など苦情が来るようになり、出荷に向かう足取りが重く、痛んだ玉葱は山に捨ててきましたが、捨てる量の多いこと、本当に情けなくなりました。

学校給食に出せない規格外は、ファーズマーケット・まんさいかんに出荷し

ました。

さあ今年の賃金はいくらになったでしょう。去年の3倍です。

平成19年、「石の上にも3年」の正念場、玉葱作り38,000本に挑戦です。

今年こそは、とみんなで気持ちを引き締め、過去2年の貴重な体験を生かし、さまざまな作業を手際良くこなすことが出来ました。

また、天候にもめぐまれ、玉葱も揃って大きくなり収穫した物はJAの倉庫を借りて、山と積み上げ出荷しました。

最近では地球温暖化と叫ばれている中で、農業をしている私達も何かできないかと思い、昨年まで山に捨てていた玉葱の茎・出荷の為に剥いた皮・大豆の枝も粉砕して畑に還元する事にしました。

また、給食センターから野菜くずや残飯を堆肥にしてあるので「使って欲しい。」と言われ、私達と栄養士さんの気持ちが一つになった大きな夢、エコ農業「環境循環型農業」をめざし、給食センターで出来た堆肥を使った新たな取り組みにより、今までと違う、化学肥料を減らした高品質な農産物を作りたいと思います。

今年も40,000本の玉葱の苗を植え付けました。

自然相手の農業、気候に左右される難しさをいやと言うほど経験しましたが、それが私達の自信にもなっています。

私たちの夢は、より多くの女性部員に参加して貰い、荒れた農地をよみがえらせ、安全・安心な農産物を育て今以上に多くの食材を、年間を通して学校給食に提供することです。

そして、子供達が給食を通して農業や、食べ物の大切さを感じ素直で健やかに育ってくれることを願っています。